

3. 上位計画・市民ニーズの把握

本事業への計画条件の整理として伊勢原市のまちづくりの方向、市民ニーズの把握、総合運動公園の概況、歴史文化等を調査し、再生修復に求められる条件や課題を整理する。

3-1 伊勢原市のまちづくりの方向

(1) 伊勢原市第5次総合計画後期基本計画（平成30～34年度）

伊勢原市の将来都市像は、『しあわせ創造都市 いせはら』の実現に向けて、5つの「未来へ届ける力」によりその姿を示している。

後期基本計画において、本計画に関連する施策は次のとおりである。

●基本構想における将来都市像と未来へ届ける力



- 暮らし力**：健やかに生き生き暮らせるまちづくり
⇒こころと体の健康づくりの推進
：人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
⇒誰もが親しめるスポーツ活動の推進
- 安心力**：災害に強い安全なまちづくり
⇒いざという時の危機対応力の強化
- 活力**：産業の活力があふれる元気なまちづくり
⇒シティプロモーションの推進
- 都市力**：快適で暮らしやすいまちづくり
⇒みんなで楽しめる公園づくりの推進
- 自治力**：市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり
⇒市民協働と地域コミュニティの活性化

中期戦略事業プラン（平成30～32年度）

第5次総合計画後期基本計画（平成30～34年度）のもと、3か年の実施計画を示す中期戦略事業プランでは、施策36 みんなで楽しめる公園づくりの推進において、総合運動公園再生修復事業が位置付けられている。

施策36 みんなで楽しめる公園づくりの推進

魅力ある公園づくりや公園の計画的な維持管理を推進することにより、多くの市民が集い、憩える場を形成します。

事業番号 36-101		総合運動公園再生修復事業 (都市部 みどり公園課)		
事業内容	・総合運動公園再生修復基本方針(案)に基づき、実施設計を行い、子ども広場の整備を行います。			
事業行程	項目	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	実施設計	実施設計	—	—
	施設整備	—	芝生広場遊具等 芝生広場トイレ	芝生広場附帯 展望広場 中央広場水景施設
目 標	指標名	指標の定義		
	総合運動公園施設の整備	総合運動公園内の公園施設整備箇所		
	現状値(平成29年度)	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	—	実施設計	芝生広場工事 芝生広場トイレ整備	芝生広場工事 展望広場・中央広場 整備

(2) 伊勢原市都市マスタープラン（平成 28 年 3 月）

①将来都市像

目指す都市の姿を「3 つの未来図」として、それらに対応した都市づくりの基本方針を次のように設定している。

目指す都市の姿	都市づくりの基本方針
未来図 1 『快適に暮らせる都市』	1.多様な世代が快適に暮らせる都市づくり
未来図 2 『活力ある都市』	2.既存ストックと広域交通ネットワークを生かした活力を生む都市づくり
未来図 3 『個性と魅力ある都市』	3.安全・安心に暮らせる都市づくり
	4.個性と魅力にあふれ環境と共生する都市づくり
	5.多様な主体が連携・連動する都市づくり

②公園・緑地の整備方針

総合運動公園は、都市的レクリエーション施設としての機能強化を図るとともに、緑の中に位置する立地特性を生かし、里山体験や自然観察の場として充実を進めます。また、広域的な防災活動の拠点として、防災機能の強化を図ります。

③地域別構想

地域別構想では地勢や市街地の形成状況等より、4つのブロックに分け、本計画地は丘陵地に農地や集落が展開し、広域幹線道路の整備が進められる中、新たな産業立地の展開が期待される『おか』の地域に位置する。

『おか』の地域構想において本計画に関連する方針は次のように位置づけられている。



図 地域区分と計画地

『おかの地域』の構想（地域づくりの方針）

安全・安心に暮らせる都市づくり

広域的な防災活動拠点として、総合運動公園の防災機能の強化を図るとともに、都市基幹公園として機能の充実や施設の更新を進める。

『個性と魅力にあふれ環境と共生する都市づくり』

地域資源の活用により、個性と魅力ある景観まちづくりを推進する。

※都市計画マスタープランからの留意事項

- ・広域的な防災活動拠点として防災機能の強化を図る。
- ・公園施設の充実や更新を図るとともに、既存資源を活かした個性と魅力ある景観形成を図ることが求められる。

(3) 緑の基本計画（平成 20 年 12 月）

①公園緑地体系における本公園の位置づけ

本市の都市公園は 145 か所整備され、総合運動公園は市内で最も大きな公園として、運動施設だけでなく幅広いレクリエーションの場として親しまれている。

市内の主な公園は、総合運動公園をはじめとして、市民の森ふじやま公園、丸山城址公園、千津ふれあい公園、市ノ坪公園、鈴川公園など基幹的な公園が立地する。

表 主要公園の概要

公園	面積 (㎡)	施設概要
総合運動公園 (本計画地)	154,000	体育館、野球場、自由広場、遊具、桜等、樹林地 等 市を代表するイベント空間
東富岡公園	8,695	テニスコート、広場、遊具、樹林地 等
市民の森ふじやま公園	25,110	フィールドアスレチック、芝生広場、桜、樹林地 等
千津ふれあい公園	10,622	遊具、広場、緑地 等
鈴川公園	20,100	野球場、テニスコート、屋外プール 等
市ノ坪公園	9,996	テニスコート、自由広場（野球利用）、遊具広場 等
丸山城址公園	24,540	芝生広場、遊具 等
県立いせはら 塔の山緑地公園	約 130,000	自然散策道、展望広場 等

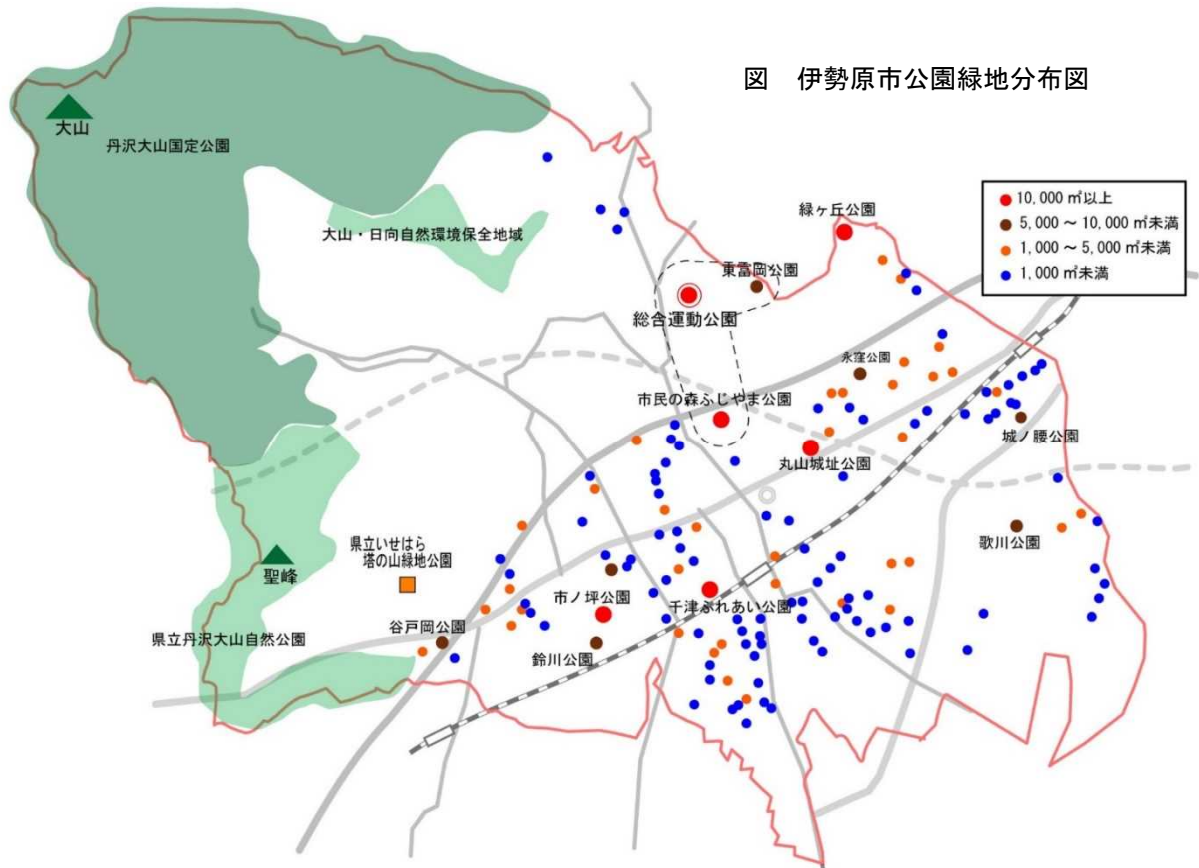


図 伊勢原市公園緑地分布図

②みどりの将来像における方向性

緑の基本計画では、大山・日向の山の緑と農地の緑に支えられる伊勢原市の緑の恵みを守り、身近な自然と共生し、花と緑で溢れた都市を目指して『自然と共生する 水と花と緑のいせはら』を将来像として定めている。

緑の配置方針では、『おか』のゾーンに位置づく本計画地は、ゾーンの中核的な公園として、自然を活かした展開やネットワークによる『まち』のゾーンとの連携が方向づけられている。

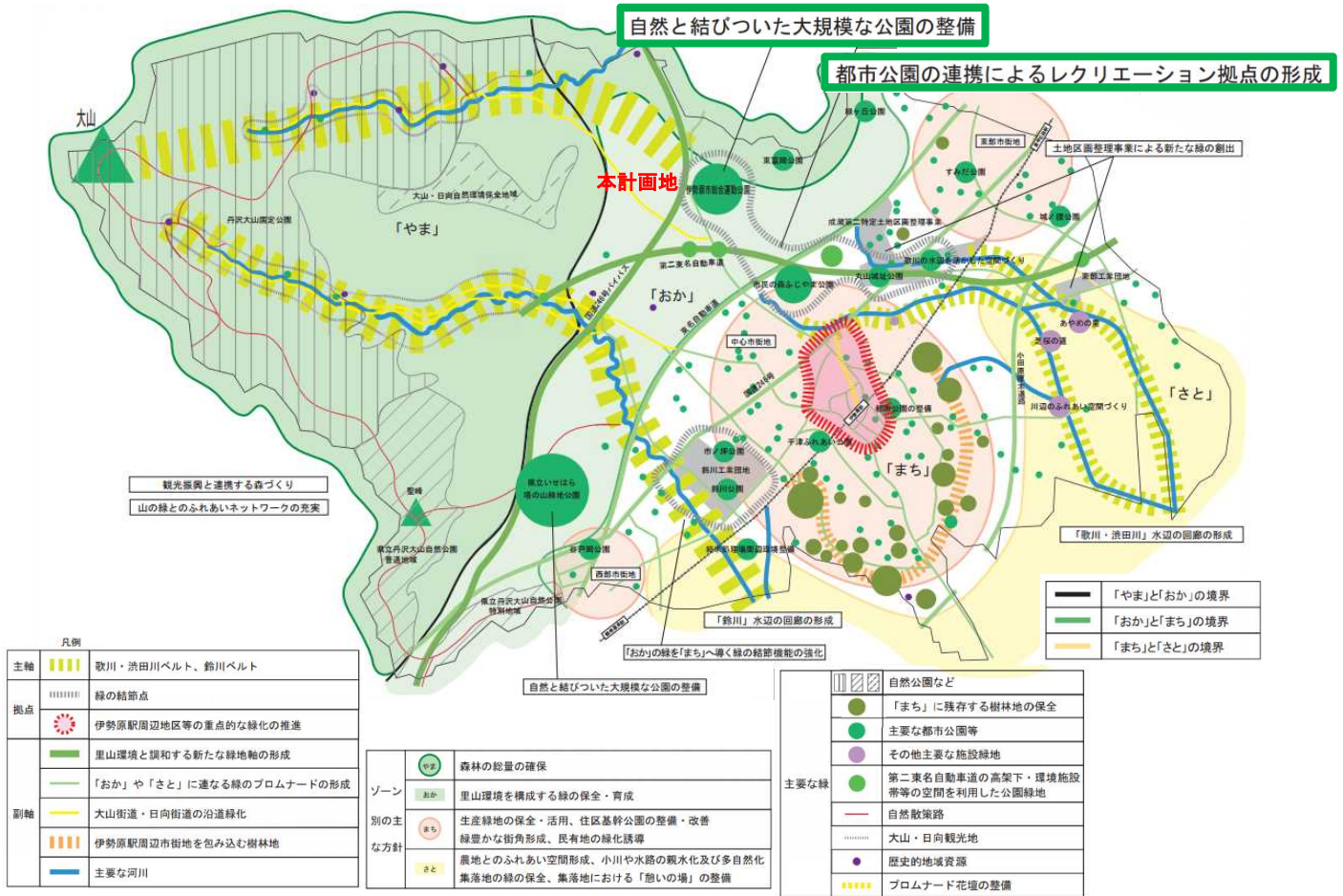


図 緑の将来図

③伊勢原市総合運動公園の位置づけ

『自然と結びついた大規模な公園の整備』

- 総合運動公園は、施設や遊具などの整備により、市民の憩いの場として更なる充実を図る。また、公園内の樹林地や周辺樹林地の保全により、里山体験や自然とのふれあいの場を創出する。
- 自然散策路等で結ばれる伊勢原市総合運動公園と市民の森ふじやま公園との連携を強化する。

『都市公園の連携によるレクリエーション拠点の形成』

- 総合運動公園と市民の森ふじやま公園、丸山城址公園は、相互連携を図り、個々の都市公園としての機能向上と総合的なレクリエーション拠点の形成を目指す。

※緑の基本計画からの留意事項

- 施設、遊具の整備による市民の憩いの場の充実。
- 公園及び周辺樹林を活かした里山体験、自然とのふれあい活動の場の創出。
- 市民の森ふじやま公園や丸山城址公園とのネットワーク化によるレクリエーション拠点の形成を目指し、特に自然散策路で結ばれる市民の森ふじやま公園とは自然散策を軸とした機能的な連携を図る。

(4) 伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画（平成 25 年 7 月）

市民生涯スポーツ推進基本計画では、誰もが、いつでも、どこでも生涯にわたりスポーツに親しめる環境づくりを市民との協働で推進することをめざしている。

『スポーツをする場所の整備』

○既存スポーツ施設の整備・充実

⇒子育て中の女性や幼児及び高齢者、障がい者にとっても利用しやすく魅力ある施設づくり
誰もが気軽に運動やスポーツに接することができる環境整備
施設の安定性や快適性の確保と有効活用

○新たなスポーツ施設(未設置施設)の整備

『スポーツをする機会の充実』

○子どものスポーツ活動の推進

○健康体力づくりの推進

○中高年者の健康寿命の延伸

※伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画からの留意事項

- ・生涯スポーツの推進の場として誰もが気軽に健康運動やスポーツを楽しめる場が求められる。
[子どもから高齢者、子育て中の女性や幼児、障がい者まで]
- ・身近な健康づくりの場の整備が求められる。

(5) 伊勢原市地域防災計画（平成 26 年 3 月）

総合運動公園は、災害対策における拠点として次のような役割を担う。

＝避難場所＝

○広域避難場所：総合運動公園 [対象自治会：川上、宮下、原、新田、日向の里]

*広域避難場所は、地震災害に伴う大規模火災による輻射熱や煙等の危険から身を守るための場所

○広域避難所：体育館（大体育室、武道場）[対象自治会：川上、宮下、原、新田、日向の里]

*広範な被災により自主防災会単位で避難生活を行う必要がある場合等を想定し、多数の被災者等を受け入れるための場所

＝広域応援活動拠点＝

○自衛隊広域応援活動拠点：自由広場、野球場

*広域応援部隊の円滑な受け入れを行うため広域応援活動拠点に指定

○ヘリコプター臨時離着陸場：自由広場（110×165m、約 18,000 m²）

＝応援ボランティア活動拠点＝

○応援ボランティア宿营地：入口広場、中央広場

＝応急仮設住宅候補地＝

○応急仮設住宅建設候補地（第 2 次）：総合運動公園

＝緊急輸送道路＝

○県指定緊急輸送道路：計画地に接続する県道 63 号（相模原大磯）

※防災からの留意事項

- ・災害対策の重要地として、施設や広場などの空間が様々な役割を担う。

3-2 市民ニーズの把握

(1) 「総合運動公園再生へのアンケート」(平成28年度)

総合運動公園の再生に向けて、利用実態や改善要求についてアンケートを実施した。

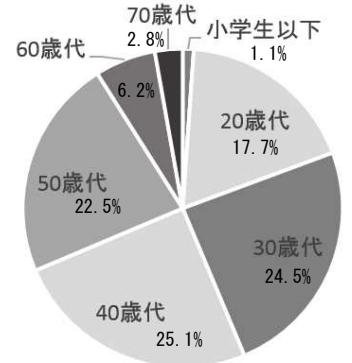
アンケートは、市民へのWEB及び用紙記入での実施と、市職員への庁内グループウェアを利用した形で実施した。

①アンケート回答者の構成

アンケート回答者は、市民146人、市職員209人の合計355人。

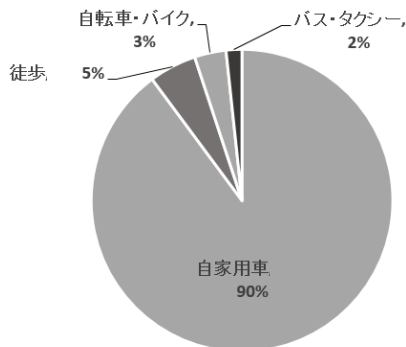
回答者の年齢層は、20歳代から50歳代が多い状況であった。

対象	調査期間	調査方法	回答数
市民	H29.3.1～ H29.3.20	WEB、 公民館等での配布	146人
職員	H28.12.26～ H29.1.12	庁内グループウェア	209人
			355人



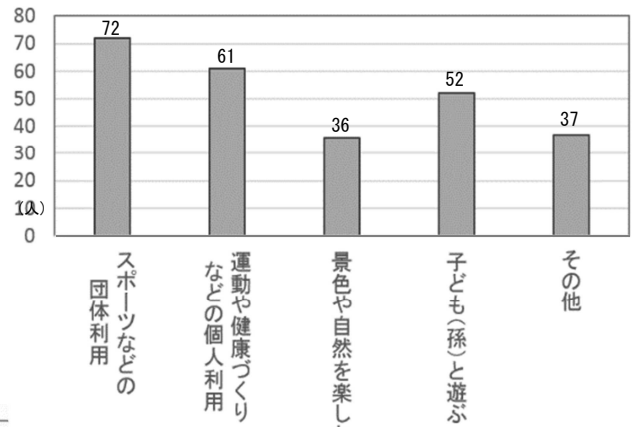
②総合運動公園への主な交通手段

約90%の人が自家用車を利用し、次いで徒歩利用(5%)、自転車・バイク(3%)で、バス・タクシー利用は2%程度となっている。



③総合運動公園利用の主たる目的

競技施設を利用する団体利用と共に、個人の運動や健康づくりのために利用する人も多い。また、子どもや孫と遊ぶ場としても利用されていることがわかる。

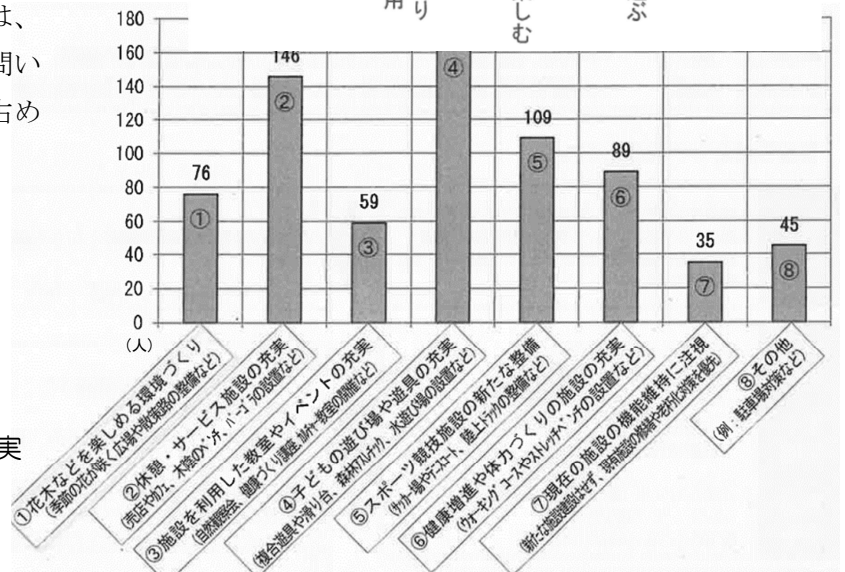


④総合運動公園の利用を増やすための改善策

総合運動公園の利用を増やすには、どのような改善が必要と思うかの問いに対し、次のような回答が上位を占めている。

[利用を増やすための改善上位5位]

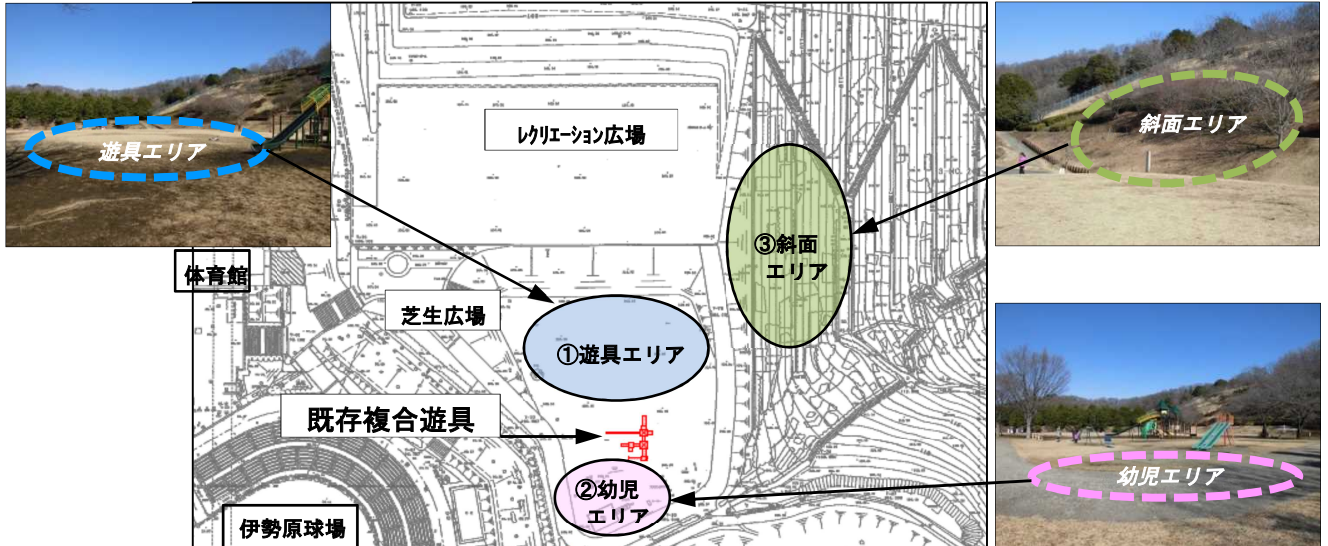
- ①子どもの遊び場や遊具の充実
- ②休憩・サービス施設の充実
- ③スポーツ競技施設の新たな整備
- ④健康増進や体力づくりの施設の充実
- ⑤花木などを楽しめる環境づくり



(2)「伊勢原市遊具に関するアンケート調査」(平成30年2月)

子どもの広場への導入遊具について市民や市職員へのアンケート調査を実施した。

調査は、子どもの広場に展開が想定される「遊具エリア」、「幼児エリア」、「斜面エリア」の3エリアに対し、あったらいいなと考える遊具を聞いた。



①アンケート回答者の構成

アンケートは、保育園を利用する保護者(市民)41人、市職員95人の合計136人から回答を得られた。

対象	調査期間	調査方法	回答数	
市民	H30.2.2～ H30.2.14	配布の上、手書き回答 配布人数220人	41人	136人
職員			95人	

②希望する遊具

- ・遊具エリアでは、ふわふわドームやアスレチック・アドベンチャー系の遊具等、大型でアクティビティの高い遊具への希望がみられる。
- ・幼児エリアでは、ふわふわドームや滑り台、水遊び場など、既存の遊具や他のエリアで対応可能なものを除いて評価をすると、ガード付きブランコ等、比較的安全性の高い遊具への希望がみられる。
- ・斜面エリアでは、その立地特性から、斜面を生かした滑り台や芝そりが圧倒的に高い希望が見られる。

③エリアごとの遊具上位3位

【遊具エリア】:「ふわふわドーム」、「アスレチック・アドベンチャー系」、「ジャングルジム(ツリ等)」が上位を占める。特に「ふわふわドーム」は、市民、職員ともに1位を占めている。

【幼児エリア】:「ブランコ(ガード付)」、「複合遊具」、「スプリング・スイング遊具」が上位を占める。

※ふわふわドームや滑り台、水遊び場について上位に位置づくが、既存の遊具や他のエリアで対応できるものは除外した。

【斜面エリア】:「滑り台(グリッサン等)」、「ローラー滑り台」、「芝そり」が上位を占める。

注 滑り台(グリッサン):滑走面がアクリル、アパ等ではなく、超高分子量ポリエチレンでできており、従来の滑り台よりもスムーズな乗り心地の滑り台

(3)「市民の体力・スポーツに関する調査」(平成22年5月)

伊勢原市市民生涯スポーツ振興基本計画の策定に当たり、市民の体力・スポーツに関する現状及びスポーツニーズの把握としてアンケート調査を実施している。

①スポーツの満足度

運動・スポーツ実施の満足度は「満足している」が16.9%にとどまり、「もっと行きたい」が32.5%、「行きたいと思っているができない」は43.7%であり、「もっと」と「できない」で76.2%をしめ、運動・スポーツに実施への意欲はあるが、満足に行えていないことが示唆されている。

自身の運動・スポーツ実施状況への満足度

項 目	人 数	割合(%)
運動・スポーツを十分に行っており、満足している	212	16.9
運動・スポーツを行ってはいるが、もっと行いたい	408	32.5
運動・スポーツを行いたと思っているが、できない	548	43.7
運動・スポーツに関心がない	87	6.9
合 計	1255	100.0

②運動・スポーツの実施形態

実際に実施されている運動・スポーツ活動は、軽スポーツを多くの人が行っている。

男女別でも軽スポーツを行っている人は男性で76.9%、女性で72.5%となっている。

スポーツ実施形態

項 目		どのような種類の運動を行っているか								合 計
		行っていない	○軽 ×野外 ×競技	×軽 ○野外 ×競技	×軽 ×野外 ○競技	○軽 ○野外 ×競技	×軽 ○野外 ○競技	○軽 ×野外 ○競技	○軽 ○野外 ○競技	
男性	人数	90	86	25	7	156	3	25	149	541
	割合%	16.6	15.9	4.6	1.3	28.8	0.6	4.6	27.6%	100.0
女性	人数	155	199	13	13	109	2	80	97	668
	割合%	23.2	29.8	2.0	2.0	16.3	0.3	11.9	14.5%	100.0
合計	人数	245	285	38	20	265	5	105	246	1209
	割合%	20.3	23.6	3.1	1.7	21.9	0.4	8.7	20.3%	100.0

軽スポーツの内容は、ウォーキング(34.1%)、次いで軽い球技(13.9%)が多い。

軽スポーツ実施内容(複数回答)

項 目	球技	体操	エアロ ビ	ウォーク	フォーク ダンス	ホリッ グ	GB, GG	ラソニ グ	水 泳	器 具 運 動	そ の 他	合 計
男性	人数	141	38	9	294	8	69	36	100	55	69	900
女性	人数	121	92	39	351	29	63	26	43	69	84	990
合計	人数	262	130	48	645	37	132	62	143	124	153	1890
	割合	13.9	6.9	2.5	34.1	2.0	7.0	3.3	7.6	6.5	8.1	100.0

注意：GB・GG＝ゲートボール・ゲラウンドゴルフ

③公共スポーツ施設への要望

公共スポーツ施設にどのようなことを望むかについては施設の増加（40.6%）、運動する場の安定性・快適性の推進（29.8%）、次いでアフタースポーツのための施設（レストラン等）の充実（15.9%）が期待されている。

運動・スポーツ施設への要望（複数回答）

項 目	人 数	割合(%)
施設の増加	829	40.6
アフタースポーツのための施設（レストラン等）の充実	325	15.9
託児施設の充実	126	6.2
施設のバリアフリー化の推進	154	7.5
運動する場の安定性・快適性の推進	609	29.8
合 計	2043	100.0

※市民ニーズの把握からの留意事項

運動公園再生へのアンケートから、本公園が身近な健康づくりや子どもの遊び場としての利用が多く上げられ、今後改善要望も、子どもの遊びや健康増進、休憩サービス施設、花木など、スポーツ施設にとどまらず、日常のレクリエーション空間として快適な環境整備が求められている。

この傾向は、市民の体力・スポーツに関する調査においても見られ、アフタースポーツのための施設や運動する場の安定性・快適性など環境整備への期待は高く、遊びや健康づくり、花修景等を備えた日常のレクリエーション整備が期待される。

アンケート調査で示す具体要望では以下の施設があげられる。

- 子どもの遊び場や遊具
- 休憩・サービス施設（アフタースポーツのための施設）
- スポーツ競技施設の新たな整備
- 健康増進や体力づくりの施設
- 花木などを楽しめる環境づくり（運動する場の快適性）

3-3 上位計画・市民ニーズのまとめ

伊勢原市のまちづくりの方向からのまとめ
<p>○伊勢原市の公園緑地の中核として、また市民の健康づくりの拠点として既存スポーツ施設と連携し、屋外空間では次のような展開が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none">・誰もが集い交流できる空間整備・市民の生涯スポーツの場となる身近な健康づくり・子供の遊び空間の整備・既存の環境を活かした自然とのふれあいの場の整備・市民の憩いの場となる花修景の推進・防災機能の充実・市民協働での公園づくり
市民ニーズからのまとめ
<p>○スポーツ空間として、また日常のレクリエーションの場として次のような展開が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none">・身近な健康づくりの場・スポーツ施設の新たな整備・子供の遊び場・休息・サービス施設の充実・快適な環境整備 <p>○遊具に対するアンケート調査では次のような傾向が見られる。[エリア毎の上位3位]</p> <ul style="list-style-type: none">・遊具エリア：「ふわふわドーム」、「アスチック・ドバンチャー系」、「ジャングルジム(ツリ等)」が上位を占める。特に「ふわふわドーム」は、市民、職員ともに1位を占めている。・幼児エリア：「ブランコ(ガード付)」、「複合遊具」、「スプリング・スイグ遊具」が上位を占める。 ※ふわふわドームや滑り台、水遊び場について上位に位置づくが、他地区で対応できるものや既存遊具で対応できるものは除外した。・斜面エリア：「滑り台(グリッド等)」、「ローラ滑り台」、「芝そり」が上位を占める。
伊勢原市総合運動公園再生修復方針検討委員会の意見のまとめ
<p>○施設の現状、課題、まちづくりの方向等を踏まえ、次のような展開が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ジョギングコース、ウォーキングコースの充実 [夜間照明施設の配置。起伏や既存資源を生かした周回コースの配置。]・観光振興に向けた取組[観光振興の面など、スポーツに限らないイベントの開催。]・駐車場の拡充[イベント時の駐車場不足や渋滞対策、芝生広場にはレクリエーション広場の駐車場が近くて便利。]・防災機能の確保[防災拠点として重要な役割を担っていることを考慮。]・遊具、遊び場 [遊具が多いと楽しめる。水遊びの場が必要。幼児が親子で安心して遊べる空間の創出。年代別に快適に遊べる対応は必要。]・法面の活用[法面を活用した遊具や遊び場があると楽しめる。]・公園の利用促進[自然も多く、展望広場の眺望もよいので、もっとアピールすることが必要。東富岡公園との連携を図る地図づくりやサインの作成。]・公園の魅力増進[花木などを楽しめる環境づくり。]

■施設整備への条件・課題

